

白河市みらい創造総合戦略に関する評価シート

【KPI実績】

（重点施策Ⅰ 安定した雇用をつくる）

成果指標	項目	基準値（年度）	目標値（H31）	H27	H28	H29	H30	H31	
成果指標	基本	管内正社員有効求人倍率	0.78倍（H26）	1.00倍	0.69	0.63	0.79		
		総事業所数（累計）	1,572件（H26）	1,572件	1,588	1,604	1,586		
		農業法人数（累計）	17法人（H26）	27法人	20	21	24		
	(1)-①	製造品出荷額（年間）	2,667億円（H25）	3,000億円	2,844	2,844	2,844		
	(1)-②	企業誘致による新規雇用者数（累計）	153人（H26）	460人	60	140	244		
	(2)-①	管内新規高校卒業者県内就職率	24.4%（H26）	30.0%	25.7	24.4	23.7		
	(2)-②	インターンシップ実施企業数（年間）	0件（H26）	23件	16	30	16		
	(3)-①	企業間連携による新商品等開発件数（累計）	0件（H26）	3件	1	3	4		
	(3)-②	各種創業支援事業による創業件数（累計）	1件（H26）	6件	5	11	11		
	(4)-①	新規就農者数（累計）	10人（H26）	25人	14	20	24		
(4)-②	白河ブランド認証産品数（累計）	16品（H26）	39品	31	30	31			

【KPI達成状況に対する委員意見】

KPIの達成状況について			
委員意見	<input checked="" type="checkbox"/>	現状維持	自由意見 目標に対して未達成の成果指標もあるが、概ね順調に推移しており、今後も目標達成に向けて各種事業を実施して欲しい。
	<input type="checkbox"/>	事業内容の精査が必要	具体的内容

〔自由意見〕
目標を達成している成果指標については、新たな目標を設定しても良いのではないかな。

【事業について】 ※詳細は資料1参照

主な重点推進事業について	事業番号	担当課	施策評価結果	今後の方向性	委員コメント
	1	商工課	人手不足解消と企業が必要とする人材を確保するため、交通費等を補助し、しらかわ地域に立地する企業への就職活動を促すことは有効と考える。本事業の利用促進のため、民間企業やU・I・Jターナー希望者に対する制度周知が課題。	継続	
	2	商工課	求職者が求める地元企業の正確な情報をHPやスマートフォンで閲覧できる企業データベースの整備やインターンシップ受入れによって求職者と求人企業間のミスマッチを解消するなど、必要人材を確保する上で事業の重要度は高いと考える。	継続	しらかわ企業データベース（産業サポート白河）の掲載内容について、人材確保対策と位置づけるのであれば、高校生や大学生向け（リクルート情報や企業の魅力等）の情報など、内容を見直してはどうか。
	3	商工課	地元企業の地力強化策として、経営支援のノウハウや広域ネットワークを持つ金融機関の強みを活かした支援は効果が期待できる。	継続	
	4	商工課	起業・創業希望者は資金面で脆弱であり、事業の成功には事前の市場調査や商品開発、販売促進の取り組みが課題となる。よって、これらに要する経費の一部を補助することで、事業化を強く後押しすることが期待できる。	継続	製造業中心の県南地域にとって、IT産業などの起業支援策は重要と思われるが、平成29年度の利用実績が0件となっているのはなぜか。原因をしっかりと分析し、事業内容の改善など、利活用を促進して欲しい。
	5	商工課	起業にあたり、資金調達は大きな課題となることから、預託による運転資金及び設備資金の融資あっせん、信用保証料補助によって、事業化を強く後押しすることが期待できる。	継続	
	6	商工課	産業サポート白河を中心とした関係機関による地元企業への決め細やかな支援を実施し、企業の事業規模拡大や増収を図るとともに、地元企業間の連携による新たな事業の創造、更には働きやすい環境づくりを進めることにより、企業価値の向上と人材の確保につなげることが期待できる。	継続	
	7	農政課	経営が不安定な就農初期段階において本事業により支援することで、計画に沿った営農に必要な農業用機械の導入が可能となるため、経営の早期安定化につなげることが期待できる。また新規就農者が活躍する姿を次の時代を担う若者が知るきっかけとなり、後継者の育成につなげることが期待できる。	継続	
	8	農政課	国際的な自由貿易化が進むことにより、安価な輸入肉が増加する懸念がある。こうした中、本事業を活用し、畜産経営の収益力を上げることにより、国産肉の価格の安定と食料自給率の向上が期待できる。	継続	
	9	農政課	6次化商品は生産ロット数が少なく生産コストが高くなることから、開発費や販路拡大費の支援、販売体制構築の支援をすることにより、本市産農畜産物の需要増加、農業所得の向上が期待できる。今後は、白河ブランドの認知度向上や販路の確保、販売戦略が課題である。	改善	
10	農政課	だるまパッケージの白河産コシヒカリの販売実績は、前年と比較して約1.5倍となっており、知名度も浸透しつつあると考える。今後も継続的な販売促進活動等により、白河市産米の需要確保が期待できる。なお事業自体を行政主導から民間主導へと移行するため、協議会組織の自立が課題である。	縮小	白河産米のだるまパッケージは、白河伝統のだるまと農産物の米を組み合わせたヒット商品で、市のお土産としてもとても良い。今後は是非、新しい組合せの商品を開発して欲しい。	

【事業の評価を含めた重点施策に対する委員意見】

評価等を踏まえた重点施策の見直しについて			
委員意見	<input checked="" type="checkbox"/>	現状維持	自由意見 [自由意見] ・新規高卒者が3年以内に離職する割合が4割とのデータもあることから、新卒の就職者のフォローや離職者の再就職の支援策を検討してはどうか。 ・企業の人手不足解消に向けて、大卒者のU・I・Jターンの取組みだけでなく、中途採用の促進や希望者への支援策も必要ではないか。 ・白河素材ヴァレーは企業連携の優良な取組みではあるが、認知度がまだ低い。その他クリエイティブ産業と併せて、効果的なPRの方法を検討してほしい。
	<input type="checkbox"/>	見直しを検討すべき	具体的内容

白河市みらい創造総合戦略に関する評価シート

【KPI実績】

（重点施策Ⅱ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる）

項目		基準値（年度）	目標値（H31）	H27	H28	H29	H30	H31	
基本	年間婚姻数	322件（H25）	322件	296	269	265			
	合計特殊出生率	1.55（H20～24平均）	1.81	1.55	1.55	1.55			
	年間出生数	485人（H26）	532人	475	513	437			
(1)-①	男女の出会い創出事業の参加者数（年間）	178人（H26）	240人	239	287	216			
(2)-①	つどいの広場等の利用者数（年間）	14,351人（H26）	15,786人	14,204	16,600	17,426			
(2)-②	保育園待機児童数（年度末）	20人（H26）	0人	16	18	41			
(3)-①	児童生徒一人当たりの1ヶ月の平均読書冊数	9.2冊（H26）	10冊	7.9	7.8	9.4			
(3)-②	学力実態調査の学力偏差値	小学校：国語、算数	52.2（H26）	56	52.2	53.5	52.3		
		中学校：国語、数学、英語	52.2（H26）	56	53.2	52.1	50.5		

【KPI達成状況に対する委員意見】

KPIの達成状況について				
委員意見	<input checked="" type="checkbox"/>	現状維持	自由意見	【自由意見】 ・移住者（転勤族）にとって、定住する場所を選ぶ要素の1つとして地域の学力や教育環境が重要である。小学校・中学校の学力偏差値は、地域の学力の目安であり、目標値の達成に向けて、学校教育の強化が必要。
	<input type="checkbox"/>	事業内容の精査が必要	具体的内容	

【事業について】 ※詳細は資料1参照

事業番号	担当課	施策評価結果	今後の方向性	委員コメント
1	生活防災課	少子化による結婚問題は深刻な状況にあることから、未婚・晩婚化に歯止めをかけるため、県南9市町村が連携し、圏域内の独身男性を対象に圏域内外から独身女性の参加を募り、広域な出会いの場を創出することで、少子化対策及び定住促進が期待できる。	継続	合計特殊出生率は未婚女性が増えると数値が下がることから、結婚支援の拡充・強化が必要。自然に出会える場やふれ合える機会を提供する取組みが欲しい。
2	こども育成課	本施設の稼働により、通常保育に預けられない病気の児童を預けることができ、小さな子供を持つ世帯の負担軽減と就労の促進が期待できる。本施設は平成31年4月より施設開所となることから、施設のPRと利用方法の周知が課題。	継続	
3	こども育成課	就労により保護者が家庭にいない児童に対して、適度な「遊び」及び「生活の場」を確保することにより、子育て世帯の負担軽減と児童の健全な育成が期待できる。	継続	
4	健康増進課	不妊治療には多額の費用がかかることから、県の特定不妊治療費助成を受けている夫婦に対し、市が上乗せで助成することにより、不妊治療を行う夫婦の経済的負担を軽減し、出生率の向上と少子化の改善が期待できる。	継続	
5	こども支援課	未就学児とその保護者が、気軽に集い交流する場として、現在「たんぼぼサロン」「おひさまひろば」の2ヶ所を開設。更に平成28年度から大信地域に出張ひろばを開設し、育児相談などの子育て支援を実施するなど、子育ての負担軽減が図られている。	継続	
6	こども支援課	医師・保健師・栄養士・臨床心理士等の専門家が連携し、妊娠から出産・子育てまで切れ目のない支援を行うことにより、母子の精神的・経済的負担の軽減を図り、少子化の改善だけでなく、安心して子育てができる白河市への移住・定住の促進が期待できる。	継続	
7	こども育成課	保育園の待機児童の解消は急務であることから、既存の保育施設の増築と新たな保育施設の開設が必要不可欠。平成29年度時点で待機児童数の解消に至っていないことから、引き続き受入施設の確保が必要。	継続	
8	学校教育課	小学6年生を対象に、史跡等文化財の見学を通じて白河の歴史・文化を学ぶ機会を設け、学習の成果を毎年、図書館ロビーに展示公開している。本市への誇りや愛着を醸成することは、子供達が将来、白河に戻ってきてくれるだけではなく、本市の魅力を発信してくれることにもつながることが期待できる。	継続	
9	学校教育課 図書館	本事業は、市立図書館と連携した学校司書を配置し、学校図書館環境を充実させることで、児童が学校図書館を計画的に利用し、主体的・意欲的に学習活動、読書活動ができる環境づくりの推進につながり、子供の学力向上にもつながる。	継続	学校司書の配置により児童の本読む冊数も増えてきている。読書は情操教育の一環にもなり、とても良い取組みである。今後も継続して取り組んで欲しい。

【事業の評価を含めた重点施策に対する委員意見】

評価等を踏まえた重点施策の見直しについて				
委員意見	<input checked="" type="checkbox"/>	現状維持	自由意見	【自由意見】 ・少子化や単世帯家族の増加により子ども達が多世代と交流する機会が少ないことで、子ども達のコミュニケーション能力の低下や感情表現が乏しいと感じる。白河文化交流館コミネスをもっと活用し、子どもの情操教育に力を入れてはどうか。 ・自然の豊かさを活かした遊び場が少ない。遊具のある公園だけでなく、自然を活かした遊び場が必要。南湖森林公園が整備されているが、利活用されていないように思う。子ども達が安心して遊べる環境や遊びのファシリテーターを増やしていく取組みが必要。
	<input type="checkbox"/>	見直しを検討すべき	具体的内容	

白河市みらい創造総合戦略に関する評価シート

【KPI実績】

（重点施策Ⅲ 新しい人の流れをつくる）

成果指標	項目		基準値（年度）	目標値（H31）	H27	H28	H29	H30	H31
	基本	現住人口（9月1日現在）		62,419人（H26）	62,320人	61,955	61,223	60,723	
観光客入込数（主要観光施設）			658,000人（H26）	783,000人	866,092	890,983	841,006		
地域ブランド調査魅力度全国ランキング			308位（H26）	250位以内	415	418	497		
(1)-① 地域ブランド調査観光意欲度全国ランキング			346位（H25）	320位以内	300	353	441		
(1)-② 外国人観光客数（年間）			150人（H26）	183人	285	551	1,165		
(2)-① 地域ブランド調査居住意欲度全国ランキング			737位（H26）	710位以内	547	830	876		
(2)-② 支援制度を利用した移住・定住者数（累計）			0人（H26）	270人	2	38	44		
(3)-① ホームページの閲覧者数（年間）			1,889,000件（H26）	2,283,000件	2,106,885	4,172,563	4,603,584		
(3)-② 地域ブランド調査認知度全国ランキング			431位（H26）	400位以内	395	477	507		
(4)-① 地域おこし協力隊の受入件数（累計）			0件（H26）	10件	2	3	2		
(4)-② コミュニティスペース利用者数（年間）		0人（H26）	4,600人	1,003	8,538	9,739			

【KPI達成状況に対する委員意見】

KPIの達成状況について					
委員意見	<input checked="" type="checkbox"/>	現状維持	自由意見	目標に対して未達成の成果指標が多く、目標達成に向けた取組みを強化して欲しい。	【自由意見】 ・成果指標の地域ブランド調査をみると、白河の認知度が低い。歴史的遺構や豊かな自然などの白河独自の資源をもっとPRしてはどうか。 ・ホームページの閲覧者数が増えており、ホームページのバナー広告をPRして市の収入源として活用してはどうか。 ・成果指標「移住・定住者数」の目標値に対して実績値が低い。目標達成に向けて重点的な取組みが必要。
	<input type="checkbox"/>	事業内容の精査が必要	具体的内容		

【事業について】 ※詳細は資料1参照

主な重点推進事業について	事業番号	担当課	担当課評価	今後の方向性	委員コメント
	1	観光課	本市の観光資源を活用した周遊型観光を推進し、観光客や交流人口の増加が期待できる。これまでにWi-Fi環境の整備やサイクルラックの設置など、観光客を迎えるための環境整備が完了したことから、今後は、楽天トラベルとの連携など、更なる誘客に向けた事業展開を進める。	継続	
	2	文化財課	国史跡及び名勝南湖公園は、本市において小峰城と並ぶ歴史的資源であり、良好な状態で後世に継承していく必要がある。南湖公園を整備し、公開活用を図ることにより、市民の郷土愛の醸成や観光資源として交流人口の増加等に寄与できる。	継続	
	3	観光課	ご当地キャラ、ヒーロー、萌えキャラを公認キャラとしている本市にとって、それを活かしつつ、交流人口の拡大に寄与している重要なイベントである。集客力は依然として高いが、今後は本市の魅力のPRや地域商店街への誘客など地域の活性化につながるような内容を検討する。	継続	平成30年度は中田運動公園で開催されているが、地域商店街への誘客を図るのであれば、以前に開催した白河駅前イベント広場が適当と思われるので、開催場所の検討が必要と思われる。「しらかわん」はご当地キャラとして人気があり、もっと活用して欲しい。
	4	観光課	新たに地方創生推進交付金を活用し、これまでジロデシラカワ、ツールドしらかわ等民間において自転車を活用したイベントを行っている本市と、西郷村、那須町の3市町村が連携して、サイクルツーリズムを推進する。自転車と観光を組み合わせた新たな観光コンテンツにより交流人口の増加やサイクリストの滞在時間を延ばし、地域の活性化が期待できる。	継続	西郷村や県境を越えた那須町と連携しており興味深い。この事業に限らず、今後様々な面で県境を越えて連携する取組みを期待したい。特に那須町は観光地としての集客力があり、連携した取組みが効果的ではないか。
	5	観光課	国の地方創生拠点整備交付金を活用し、小峰城城山公園の二ノ丸茶屋と南湖公園の楽楽らくおうを改修する。改修後の二ノ丸茶屋には、市の製品の展示販売だけでなく、市の農産物を使った食事を提供することで、交流人口の増加や観光客の滞在時間を延ばす効果が期待できる。また、楽楽らくおうの改修後には、那須の有名カフェの出展が決定し、新たな観光スポットとして期待できる。	継続	
	6	まちづくり推進課	人口減少により空家の増加が予想される中、安全面や衛生上の問題の解決に向けた取組みとして、「空家バンク」による空家の有効活用に取り組みむとともに、空家対策の総合相談窓口を設置し、空家の解消に向けた取組みを強化する。	継続	
	7	企画政策課	若年層が集い活動できる場を設置し、様々な世代との交流やまちの魅力を再発見する取組みにより、郷土への誇りや愛着を育むことが期待できる。特に高校生が地域の人材との出会いや地域資源への気づきの契機を提供することで、更なる地域活性化が期待できる。今後は、地域との協働による取組みや将来の目標を明確にする必要がある。	改善	
	8	企画政策課	現在、本市には2名の地域おこし協力隊（大信地域、東地域）が活動中。大信地域の協力隊については、まだ明確な成果が出ていないことから、隊員の地域を巻き込んだ活動をサポートするため、毎月のミーティングを実施し、活動内容の確認や課題の解決を連携して取り組む必要がある。また、まだ隊員が配置されていない2地域への配置に向けて募集活動を継続する。	改善	

【事業の評価を含めた重点施策に対する委員意見】

評価等を踏まえた重点施策の見直しについて					
委員意見	<input checked="" type="checkbox"/>	現状維持	自由意見		【自由意見】 ・南湖公園のPRが少ないのではないかと。プロジェクトマップのような単発のイベントだけではなく、継続的なイベントや仕掛けでリピーターを増やす取組みが必要。 ・市のQOL（生活の質）の向上が、人口減少の歯止めや交流人口、関係人口の増加に繋がる。このような好循環のサイクルを生み出すための戦略が必要。 ・市の取組みを効果的にPRするため、新聞掲載の活用は効果的。なお、「全国初」や「県内初」といった他に先がけた取組みや県境を越えた広域連携の取組み等は、特に新聞に掲載しやすい。 ・翌年のイベント日程を、事前に関係者が協議し調整することで、効果的な集客や新たな連携が生まれるのではないかと。
	<input type="checkbox"/>	見直しを検討すべき	具体的内容		